

三保の浜に深海性古代魚—カグラザメ—が打ち上がる

岸本浩和・横山謙二



図1. 三保半島外沿の浜辺に打ち上げられたカグラザメ腐乱個体
2016.06.18., 駿河湾奥西, 三保半島海浜, 34° 59'37.8", N 138° 31'26.9"E



図2. カグラザメ *Hexanchus griseus* (Bonnaterre, 1788)



図3. 全長 357 cm。未成魚と思われますがやはり大きい。

2016年6月18日の早朝、いつものように三保半島外沿の浜辺を散歩していたところ右半身が砂利に埋もれた巨大なサメを発見しました(図1、2)。3日前の15日にも同じコースを散歩した時は姿はありませんでした。乾燥も進んでないことから、恐らく、漁獲投棄物が海底で腐敗して浮上し、漂着したものと考えられます。

まずは常に携行している小型カメラで撮影し、巻き尺を取り出し、折れ曲がった尾端部をまっすぐに伸ばして全長(正しくは左外周?)を計測しました。いつものサメのアンモニア臭というより、腐敗臭がひどいものでしたが、そばにいた釣り人が興味津々で手伝ってくださっ

たお陰で3m57cmと計測できました(図3)。

独特の顔つきと背鰭が一つしかないことからカグラザメと推定できたので、すかさず鰓孔が6つあることを確認しました。ほとんどのサメとエイは左右で5対しかないので、6対のサメは3種類に絞られます。そのうちラブカは本誌28、29号にも登場しているように、全く異なるサメです。近似種のシロカグラは分布が四国以南に偏っており、2mにしかならない小型種なので、5mにもなるカグラザメの未成魚と考えられます。

従来、鰓孔の数が多いことと背鰭が一つからなることが軟骨魚類全体のルーツを証明する原始的要素の一つと考えられてきましたが、

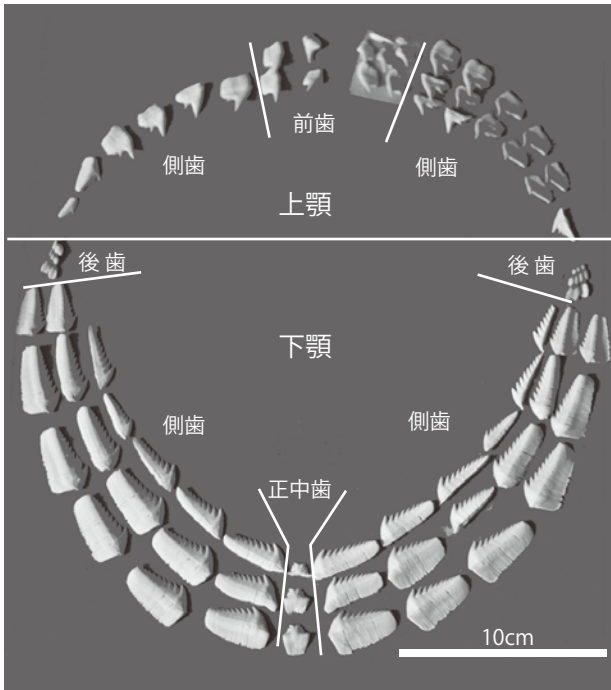


図4. 岸本・横山が採集したカグラザメの歯
上顎後歯がありませんが、ほとんどの歯が揃っています。

現在はむしろ進化的軟骨魚類であるツノザメ類やエイ類の共通の祖なのでしょう。

この貴重な標本を博物館で保存したいところですが、大きすぎるし、腐ってもいることからあきらめざるを得ません。最初に発見した岸本は腐っているからこそ簡単に剥ぎ取ることができた顎の歯だけを持ち帰りました。しばらく後で横山も歯を持ち帰りました。連絡取りあったわけでもない二人が同じく歯を持ち帰ったのには訳があります。

脊椎動物は一般に内部骨格が硬骨でできているために化石として残ることが多いので、絶滅種の形態が相当詳しく研究されています。ところが、サメ・エイ類は内部骨格がすべて軟骨でできているので死後間もなく腐ってしまい、よ

ほどのことがない限り化石化することがありません。しかし、顎の歯はヒトなど哺乳類と同様、エナメル質で覆われたきわめて固い構造なので、化石として残りやすいのです。しかも、サメの歯は外側から内側に向かって数列並んでいて、使い古した外側の列が脱落すると内列歯が前進交代する使い捨て方式になっているため、一尾が一生涯のうち数万本もの歯を落としていると言われています。これは化石になりやすいので、絶滅種の本体は不明でも、生きた証だけは大量に残っているのです。つまり、現生の軟骨魚類の歯のコレクションを作れば、絶滅種との類縁関係を推定しやすくなるということを知っている二人は同じ目的をもって標本を作ろうとしたのです。

横山が取ってきた歯は岸本が取ってきた歯の欠落部分を補うものであって、合わせると両顎のほぼ全歯が揃いました(図4)。カグラザメの歯は、上顎と下顎で形態が異なっており(図5参照)、下顎は中央にチューリップを前から見たような形の正中歯、その後方(遠心側)に咬頭を8~7そなえる櫛のような歯の側歯、その遠心側の微細な歯の後歯からなります。上顎は、下顎と異なり正中歯がなく、単咬頭の前歯、その遠心側に咬頭数が2~5そなえる側歯と後歯からなります。

このように個々の歯の形や上下歯の相違などは、食性の推定や近縁種との識別、共有する他種との類縁関係考察などに重要な情報をたくさん提供してくれるのです。この歯の標本は本体こそありませんが、登録番号SPMN-Pi 4033Xを与えて、地球環境史ミュージアムで保管することにしました。

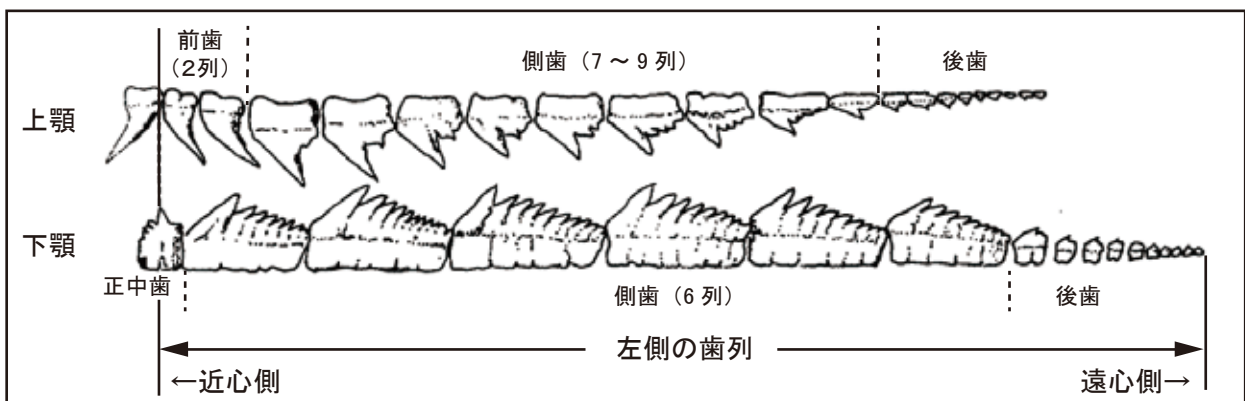


図5. カグラザメの歯列(左側): Cornpagn (1984) の図に加筆。

Compagno Leonard J.V. (1984) FAO SPECIES CATALOGUE, Vol.4. Sharks of the world, An annotated and illustrated catalogue of shark species known to date Part 1 - Hexanchiformes to Lamniformes., FAO Fish Synop., (125)Vol.4,Pt.1: 249 p.